

104 風俗画の近代化

カラヴァッジョの世界

2024

真鍋友範



《トランプ詐欺師》1594頃 カラヴァッジョ

1 カラヴァッジョの風俗画

カラヴァッジョは、1600年に《聖マタイの召命》で劇的な社会デビューを実現させたのだが、その前に、風俗画に於いて興味深い作品を描いている。



《果物籠を持つ青年》1593頃



《バッカス》1596頃

カラヴァッジョ

このような男色的テーマの作品が求められる社会環境が、カラヴァッジョ周辺の16世紀末のローマの環境に存在していたのであろう。

《バッカス》という題名など、まるで、非難された時の言い逃れの為に用意したような題名ではないか。

需要があつての作品制作であつたであろう。当時のカラヴァッジョにとっては、さほど違和感を抱かなかつたのかもしれない。

2 風俗画であり、同時に教訓画という二面性絵画

ところで、カラヴァッジョの描いた風俗画には、もう一つの傾向がある。それは、教訓画に近い内容の風俗画だ。

その例の一つは、《トランプ詐欺師》や、《女占い師》だ。



《トランプ詐欺師》1594頃



《女占い師》1595-98

これらの風俗画には、オランダ起源の教訓画とのテーマの共通点が多い。

当時、ユトレヒト地域のカトリック派の画家たちにとって、ローマはイタリア・バロック美術を学ぶ上で、重要な地域であつた為、テルブルッヘンが、ローマに学び、幸運にもカラヴァッジョや彼の作品と接触できたことの影響は、大きかつたのだが、同時に、それ以前のカラヴァッジョへのユトレヒト派の画家たちからの逆影響もあつたと推測できるのだ。

この時代状況下で、先ほどの《トランプ詐欺師》や《女占い師》というテーマの風俗画を、カラヴァッジョが残している。

反宗教改革の旗の下、宗教絵画の創作に熱心なローマの社会環境にあつて、

これらのネーデルランド・ユトレヒト派起源の風俗画に触れた、地元ローマの画家たちや美術愛好家にとっては、【新鮮な画題の作品として目に写った】に違いない。

カラヴァッジョは、この点において、バロック期初頭に於ける、ローマの人々の新嗜好を見極めていた画家であったことになる。

3 風俗画の近代化



《トランプ詐欺師》1594頃 カラヴァッジョ

当時のローマ教会側の最大の関心事は、新興のプロテスタント勢力に対し、如何にカトリック側勢力を盛り上げて対抗するかであった筈だ。

その中心地ローマに於いて、カラヴァッジョの描く風俗画は、新鮮であったが、その起源ネーデルランド・ユトレヒトでは、旧来の宗教画題材に変わる題材としての地位を先行獲得していた。

つまり、当時ローマに赴いて、カラヴァッジョに出会ったネーデルランド・ユトレヒト派の画家は、カラヴァッジョの影響を強く受け、より写実的で動画要素の強い近代的表現に目覚めたのだ。

その良い例が、画家テルブルッヘンが、故郷オランダに帰郷してから描いた《聖マタイの召喚》だ。



《聖マタイの召喚》 1620

マルロー美術館 ルアーブル フランス



《聖マタイの召喚》 1621

ユトレヒト中央美術館 ユトレヒト オランダ

両作品とも、テルブルッヘン作

テルブルッヘンが、いかにカラヴァッジョの影響を強く受けたかを窺わせる内容の作品だ。

- 1) カラヴァッジョへのオマージュを感じさせる題名そのもの。
- 2) 登場人物の身体動作をしっかりと見なければ、誰が呼ばれたのか分からない、というスタイル。
- 3) 最終的に、数秒間の動画物語場面になる、というスタイル

こういった点において、カラヴァッジョは、テルブルッヘンに対し、写実表現以外でも、大きい影響を与えたのだった。

この事実は、風俗画を、その後の、より近代的な風俗画内容へと進化させることに繋がっている。